

# 中島実紀 ソプラノリサイタル

ピアノ：黒田聰子

1部

- 笑いと涙…………… シューベルト  
ガニュメート…………… シューベルト  
くるみの木…………… シューマン  
献呈…………… シューマン  
歌の翼に…………… メンデルスゾーン  
新しい恋…………… メンデルスゾーン  
そりすべり…………… トゥルンク  
花嫁探し…………… トゥルンク

2部

- 「ウィーン気質」より 懐かしい古き街…………… シュトラウスⅡ世  
(訳詞:黒田晋也)  
「踊り子ファニー」より シーフェリングのリラの花…………… シュトラウスⅡ世  
(訳詞:黒田晋也)  
私のママはウィーン生まれ…………… ゲルーバー  
(訳詞:黒田晋也)  
「モニカ」より 夢だけでも…………… ドルタル  
「デュパリー夫人」より 私の中で何かが始まる…………… ミレッカ  
ウエストサイド物語より  
アイ・フィール・ブリティ～サムホエア～トナイト…バーンスタイン  
「キャンディード」より 煌びやかに、着飾って…バーンスタイン

浜松出身の  
演奏家シリーズXVII

## 四季のコンサート 2010

2010年5月22日(土)6:45PM

会場:浜松市教育文化会館

主催:浜松音楽友の会

### プロフィール

#### 中島実紀(ソプラノ)

浜松学芸高等学校音楽科卒業。国立音楽大学声楽学科卒業。二期会オペラ・ストゥーディオ第47期マスタークラス修了。イーストマン音楽学校夏季セミナー受講、デイル・ムーア氏に師事。新美博義、酒井あやの、小串昭子、黒田晋也の各氏に師事。第16回静岡県学生音楽コンクール第1位。第50回全日本学生音楽コンクール東京大会第2位。これまでにオペラでは、第4回浜松市民オペラ「三郎信康」の侍女・甲役、同第5回「魔笛」のパパゲーナ役、ドン・チマッティ生誕125年オペラ「細川ガラシア」では巡礼の娘役、日本オペラ連盟人材育成公演「ポッペアの戴冠」のアモーレ役に出演。オペレッタでは、オペレッタ座公演「リーベ・クロスター」のクララ役、同公演「マイン・シャツ」の加賀清子役、調布市民オペラ第11回公演「こうもり」のイダ役に出演。2009年3月には“ACT New Artist Series”にてリサイタルを開催。2010年5月には二期会サロンコンサート、その他、様々なコンサートに出演し活躍中。二期会会員。

#### 黒田聰子(ピアノ)

国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業。野村知世、清水せつ、石塚由紀子の各氏に師事。東京夏の音楽祭「チャルダッシュの女王」のピアニスト役で出演。また、「小さなコンチェルト」では東京交響楽団と共に演じた。その他、室内楽など活動の範囲は多岐にわたっている。オペレッタやワインナーリート伴奏、コンサート、オペラ、ディナーショー、サロンコンサートなどフリーの伴奏者として幅広く活躍中。東京室内歌劇場会員。

中島実紀  
ソプラノリサイタル



MIKI NAKAJIMA  
SOPRANO RECITAL

## ●フランツ・シューベルト(1797~1828)／笑いと涙 ガニュメート

シューベルトは短い生涯の中で、600曲近い歌曲を残した。『笑いと涙』はリュッケルトの詩により、おそらくは1823年に書かれ、1826年に出版された。「笑いと涙がどんな時にも 愛の側でくつろぐのは本当にいろんな理由があるもの」と歌われる。『ガニュメート』は、ゲーテの詩による通作形式のバラードで、1817年に作曲されて1825年に出版された。ガニュメートとはギリシア神話に登場するトロイアの王子で、オリンポスの神に不死の酒を給仕すると伝えられる。

## ●ロベルト・シューマン(1810~1856)／歌曲集『ミルテの花Op.25』より くるみの木 献呈

シューマンが1840年に書いたのが『ミルテの花』。ミルテとは地中海沿岸に咲く白く香り高い花。ドイツでは純潔を表すため、花嫁の装飾に使われる。花言葉は愛、だからこそシューマンは結婚前夜にこの曲集をクララに献呈したのである。モーゼンの詩による『くるみの木』は第3曲、「乙女が花嫁となる未来の夢を育む」と歌われる。第1曲『献呈』ではリュッケルトによる「君は僕の心、僕の喜び、心の痛み、安らぎ、僕以上の僕」という詩が恋人に対する真摯な情熱を吐露する。

## ●フェリックス・メンデルスゾーン(1809~1847)／歌の翼に 新しい恋

メンデルスゾーンもまた、数多くの歌曲を残している。なかでもよく知られているのが『歌の翼に』。この曲は『6つの歌曲Op.34』の第2曲で変イ長調、ハイネの詩によって「歌の翼に乗せて、君をガンジス河まで連れて行こう」と歌う。また『新しい恋』は『6つの歌曲Op.19』の第4曲で嬰ヘ短調。夜の雰囲気を漂わせ、ハイネの詩によって「月明かりの森の中を妖精たちが通って行った。それは新しい愛の合図なのか、死のそれなのか」と不安気に歌われる。

## ●リヒャルト・トゥルンク(1879~1968)／そりすべり 花嫁探し

トゥルンクは、ドイツの作曲家、ピアニスト、指揮者、音楽評論家。ミュンヘンでヨゼフ・ラインベルガーに薫陶を受け、ニューヨークに招聘されて指揮活動をしたり、オペレッタ『ハートの女王(1916年)』や合唱曲、また歌曲を数多く作曲、また旺盛な評論活動も展開している。グスタフ・フルケの詩によるメロディアスな『そりすべり』と、アルベルト・ゼルゲルの詩による軽快で官能的な『花嫁探し』は、同じ曲集に収められた佳曲である。

## ●ヨハン・シュトラウスII世／オペレッタ《ウィーン気質》より 懐かしい古き街

オペレッタ《踊り子ファニー・エルスラー》より シーフェリングのリラの花

「ワルツ王」と呼ばれたJ.シュトラウスII世(1825~1899)は夥しい数のウィンナ・ワルツやボルカを作曲、また数々の人気オペレッタを残した。この『ウィーン気質』は、既に作曲されていたワルツやボルカを集めて編曲した全3幕のオペレッタ。作曲家が中途で他界したため、指揮者A.ミュラーが引き継いで完成させた。この『懐かしい古き街』は、第1幕フィナーレで歌われる。《踊り子ファニー・エルスラー》は1935年、J.シュトラウスII世の名曲をもとに指揮者O.スッタラによって仕上げられたオペレッタ。エルスラーは実在した美貌のバレリーナで、ウィーンに生まれ、全世界を舞台に活躍した。シーフェリングとは、郊外の美しい村。

## ●ルードヴィヒ・グローバー(1874~1964)／私のママはウィーン生まれ

グローバーは、ウィーンに生まれた作曲家、歌手、指揮者である。叔父にピアノを学び、音楽院に進んでロベルト・フックスなどに薫陶を受けた。やがてチェコの温泉保養地カルロヴィツアに劇場を設立、経営にも携わった。作曲家としてもオペラやオペレッタ、合唱曲、宗教曲、歌曲などを残している。取り分けこの作品は、グローバーの代表曲としてよく知られており、「ママはウィーンで生まれたから、私はこの街が好き。私はウィーンが好き」と歌われる。

## ●ニコ・ド・スタイル(1909~1969)／オペレッタ《モニカ》より 夢だけでも

ド・スタイルは第一次世界大戦に従軍した後、インスブルックやウィーン、ザルツブルクの宫廷楽長も務めたオーストリアの作曲家である。編曲家としても活躍したが、ド・スタイルは、「最愛の人」や「ハンガリーの結婚」などのオペレッタや、また映画音楽についてもそれぞれ20曲以上を残している。今日歌われるのは、1937年に作曲されたオペレッタ《モニカ》から『夢だけでも』。

## ●カール・ミレッカー(1842~1899)／オペレッタ《デュパリー夫人》より 私の中で何かが始まる

ミレッカーはウィーンで生まれた作曲家。当初フルートを学んだが、主に《乞食学生》などオペレッタの作曲家として活躍、当時はスッペやJ.シュトラウスに並ぶ人気を誇った。ウィーン歌劇場の指揮者を務めたことでも知られる。1879年10月31日、ウィーンのアンデア・ウイーン劇場で初日を迎えたオペレッタ《デュパリー夫人》は1951年ドイツで映画化もされた。その中から『私の中で何かが始まる』。

●レナード・バーンスタイン／《ウエストサイド物語》より アイ・フィール・ブリティ・サムホエア・トウナイト  
(キャンディード)より 煙びやかに、着飾って

バーンスタイン(1918~1990)は、20世紀を代表する指揮者、作曲家、ピアニストである。指揮者としては一世を風靡し、作曲家としてもクラシカルな交響曲等からミュージカルや映画音楽まで幅広い作品を発表した。《ウエストサイド物語》は、「ロミオとジュリエット」に着想を得て当時の若者たちを描いたブロードウェイの大ヒット作。映画でも世界中を魅了した。

一方の《キャンディード》は、ウォルテールの「キャンディード或は樂天主義説」を原作とした舞台劇。やはりロングランを続けたが、この『煙びやかに、着飾って』は超絶技巧を要する難曲として知られる。